

平成 年度 技術士第二次試験 模擬答案用紙

受験番号	
問題番号	Ⅱ-1-

技術部門	部門
選択科目	
専門とする事項	

※

○受験番号、問題番号、技術部門、選択科目及び専門とする事項の欄は必ず記入すること。
 ○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。（英数字及び図表を除く。）

(1) システムをレベルアップする3つのステップ
① 第1ステップ：見える化
ソフトウェアの生産性や品質を計測するために、定量的な数値又は図などの可視化（見える化）を行う。
② 第2ステップ：共有化
開発者⇔利用者（受託者⇔発注者）間において、ソフトウェアの生産性や品質に対する齟齬がないよう、共通の指標を利用し、情報を共有する。
③ 第2ステップ：柔軟化
業務プロセス、組織など変化を予測した上で、変化の契機に対応して、変えるべきものを変化させる。
(2) 3大メトリックスと取り組み事項
① 開発規模
開発規模はソフトウェアの量である。プロジェクト初期時では、過去事例を参考にした類推法、要件定義以降では、機能要求の規模を一定のルールを用いたFP法で開発規模を算出する。
② 開発工数
開発工数は、ソフトウェア開発で必要になる作業工数である。開発工数は、開発規模を元にプロジェクトの特性を加味した生産性で工数を算出する。
③ バグ数
バグ数は、ソフトウェアの品質評価に利用する。ただし、品質評価はバグ数だけでなく、累積バグ数とテスト消化状況を付加したPB曲線を利用して評価する。

●裏面は使用しないで下さい。

●裏面に記載された解答は無効とします。

24字×25字